

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



北区

いざというときに備える
知識や行動を学ぶ

「北区防災センター」

北区防災センターでは、展示や体験、訓練をとおして、防災に関する正しい知識や、防災技術を身につけることができます。今後高い確率で起こり得る大地震に備え、事前の対策と発災時の行動について、考える機会を与えてくれる施設です。

平時と有事に機能する防災拠点

「地震の科学館」として知られる「北区防災センター」は、国の「防災基地建設モデル事業」の一環として、1984年に開館しました。

大地震等が発生した災害時には、北区災害対策本部のバックアップ施設として機能し、情報の収集・発信などの役割を果たします。平時には、地震に関する展示やさまざまな体験をとおして、防災意識の高揚と防災行動力の向上を図っています。家族連れのほか、児童生徒や自主防災組織などに利用されています。

展示と体験で地震災害を知る

展示は、「命を守る」、「生活を守る」、「地域を守る」、「デジタル・ステーション」、「地震の基礎知識」の5つのテーマで構成されています。地震の際に屋内外に潜む危険箇所や、大地震発生後のライフラインの復旧、地域での防災活動と避難所での生活、災害時にとるべき行動など、地震対策に必要な情報が、わかりやすく展示されています。

「地震体験」、「煙体験」、「消火器取扱い」、「心肺蘇生」、「応急救護」からなる体験コーナーでは、震度7の揺れや火災の煙、負傷者の応急手当、消火器を使った消火訓練などが体験できます。関東大震災から熊本地震までの揺れを起震装置で再現しており、揺れの大きさだけでなく、それぞれの地震の揺れ方や強弱、揺れていた時間などをリアルに体験することができます。

地震について学んだ後は散策を

施設の指導員として、元消防職員が複数在籍しており、各体験エリアでは、指導員の実体験を踏まえた説明を受けながら体験することができます。家族連れの利用が多いですが、学校や社員教育などに利用できるプログラムも用意されています。

所長の櫻岡さんは、「首都直下型地震は、30年以内に70%の確率で発生すると言われています。当施設で体験したことや学んだことを通じて、いつどこで発生するかわからない大地震災害に備えていただければと思います」と話しています。

日本最初の公園のひとつに指定されている飛鳥山公園や、渋沢栄一翁が新しい一万円札の肖像画に決まるなど話題となっている渋沢史料館などとともに、「歩きたくなるまち 北区」を堪能してみたいかがでしょうか?



屋内外に潜む危険箇所を展示する「命を守る」



災害時にとるべき行動を学ぶ
「デジタル・ステーション」



自主防災組織と避難所について知る
「生活を守る」



(左上)揺れの激しさと恐ろしさを知ることができる「地震体験」

(右上)密閉した部屋で人工的に作った煙を体験する「煙体験」

(左)応急手当の正しい知識と方法を学ぶ「応急救護」体験

北区防災センター(地震の科学館)

所在地 北区西ヶ原2-1-6

開館時間 9:00~17:00

休 園 日

毎週月曜日(国民の祝日・休日の場合は、翌日)、
国民の祝日(ただし土曜日の場合は開館)、年末年始

入 館 料 無料

アクセス JR京浜東北線中里駅より徒歩5分

お問い合わせ 03-3940-1811

